

C-56 服装の色嗜好の地域差に関する研究(計2報) 色嗜好向の変動に対する検討
上戸学園女短大 吉川和志 東京家政学院短大○今井弥生 武蔵川女大
家政 林森子 橋本千鶴

目的 服装の色嗜好が地域によって、どのような変動を示すかを、東京、阪神の西地区について検討した。

方法 被験者は東京家政学院短大学生185名(東京地区)、武蔵川女子大学学生99名(阪神地区)で調査時期は1970年11~12月であった。対象とした服の種類は'70~'71年秋冬用のワンピース・ドレスである。調査方法はアンケート形式により、オストワルト色体系に準じて調整した調査専用の色票を用い、JIS Z 8723に従って構成色数82色の中から'70年購入した色、'71年に購入予定の色を選んで色愛番号を自記させた。色の分類は14色相、11トーン、無彩色(明度)5段階とした。

結果 両地区向の相関はやや高い。'70年と'71年との色相向の相関係数は東京地区0.671、阪神地区0.663、トーンと無彩色向は東京0.110、阪神0.753となり、東京地区はトーンと無彩色向において相関が低い。

色嗜好の推移確率行列から色相向の移動を考察すると、東京地区は主に青から黄緑、黒に、阪神地区は赤から赤、黄、青に移動する傾向が強い。

トーンと無彩色向では東京地区はダーク、ストロングからブライト、ビビッドに、阪神地区はビビッド、ダークからライト、ブライトに移動しているが、全体として東京地区のように極端な移動はない。

服の色嗜好において両地区とも、前年度と同色を愛がものは多く、色嗜好向の移動に対して、両地区に特徴が認められた。